



平成 18 年 10 月 13 日

各 位

上場会社名 日本精密株式会社
(JASDAQ コード番号 : 7771)
代表者名 代表取締役社長 岡林 博
問合わせ先 取締役 杉本 創
(TEL (048)225-5311)

事業再生支援に関するスポンサー契約についてのお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 18 年 8 月 31 日付で民事再生手続開始の申立てを行った株式会社村井の事業再生を目的として、スポンサー契約を締結することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. スポンサー契約締結に至った経緯

旧・村井は、1973 年「イブ・サンローラン」と眼鏡枠のライセンス契約を交わして以降、「ジャンポール・ゴルチエ」「ソニア・リキエル」など有名ブランド品を主力に事業を展開し、「Fu ga」など自社ブランド商品の開発・販売も行って業容を拡大。ニューヨーク、香港などに拠点を置き、国内も地域別に販売会社を設立するなど営業基盤を構築、業界内で確固たる地位を築いた。

しかし、消費が低迷するなか 2001 年主力製品であった「イブ・サンローラン」のライセンス契約が終了、新商品の投入も奏効せずに業績は悪化した。

このため、製造部門子会社であった株式会社シグマは、2003 年に親会社（旧・村井）と合併し、以降は眼鏡枠の製造から撤退し卸部門に特化。大幅な人員削減、遊休不動産の売却などで立て直しを目指したが、海外からの低価格品の攻勢、過大な有利子負債が経営を圧迫。新ブランド投入や新規顧客の開拓などを進めたものの、金融機関の足並みが揃わず、資金繰りのメドが立たなくなり、自力での再建を断念した。

当社は、連結子会社である NISSEY VIETNAM CO., LTD. で眼鏡枠の製造は行っているが販売網を持っておらず、メガネ事業拡大には販売網の構築が不可欠であると考えていた。そこで、株式会社村井の営業基盤に注目し、国内外においてその営業機能の活用が充分見込めると判断し、事業再生を目的としたスポンサー契約を締結するに至りました。

2. スポンサー契約の概要

株式会社村井の民事再生手続き完了までの運転資金等の援助
従業員の雇用継続

再生改革案の提出（期限、平成 19 年 2 月 16 日）

再生手続きに基づく債務の弁済

再生後の会社の運営支援

3．再生計画の方針

当社と株式会社村井のパートナーシップを構築して、両者のシナジー効果を追い求めながら、村井の眼鏡業界でのブランド力を最大限に毀損しないようにスムーズに事業を継続することを目的とする。

さらに、眼鏡業界の商慣行から在庫負担が非常に大きく、川上から川下の合併ないし提携という方式で、新しいビジネスモデル構築により、製造メーカーとしての当社、販売会社としての村井の組み合わせにより、当社は株式会社村井を「MURAI」ブランドとして評価活用して、当社の中核事業であるメガネフレーム部門の拡大を計る。

4．株式会社村井の概要

- | | |
|------------|------------------------|
| (1) 商号 | 株式会社村井 |
| (2) 本店所在地 | 福井県坂井市坂井町福島 9-1-1 |
| (3) 代表者 | 代表取締役社長 村井 勝 |
| (4) 資本金の額 | 9,500 万円 |
| (5) 主な事業内容 | 眼鏡、サングラスの企画、製造、卸売及び輸出入 |

5．今期の業績に与える影響

株式会社村井の債権届出期間が平成 18 年 12 月中旬、日本精密株式会社の再建計画提出が平成 19 年 2 月中旬であり、確定的なことは現時点では申し上げられませんが、当期はほとんど影響無いものと考えております。

6．今後の業績への影響

当社はメガネフレームメーカーとして、長年営業しておりますが、大きな問題点は「販売機能」の不足でした。同時に、メガネフレーム販売上の大きなポイントでもある「ブランド」力不足にも苦しんでおりました。今回の株式会社村井の支援により、当社の子会社のベトナム工場の稼働率も向上し、販売経路の圧縮で販売単価の改善も見込まれます。独自のブランドも持つことが出来ます。全体的に他の部門が上げた収益を減殺してきたメガネフレーム部門の改革で、当社全体としても収益改善が見込まれます。

以 上